

三次元座標計測 (第6回) 2005年度大学院講義 2005年12月13日

高増 深
東京大学工学系研究科
精密機械工学専攻
E-mail: takamasu@pe.u-tokyo.ac.jp
HP: http://www.nano.pe.u-tokyo.ac.jp/



シミュレーション用のデータを作る (1次式)

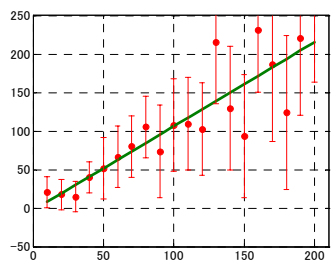
- St = [10 10 10 10 20 20 20 20 30 30 30 30 30 40 40 40 50 50 50 50];
各測定点の誤差の標準偏差
- xt = [1, 0]; 真のパラメータ値
- n = length(St); 測定点の数
- x = [10:10:10*n]; 測定点の位置
- yt = xt(1) * x + xt(2) + (randn(1, n) .* St);
真のパラメータから計算した測定値に乱数を足す。
- yt = [20.6412 17.5461 14.8246 40.0973 51.4275 66.3307 79.9965 105.5617 73.5655 107.8243 109.6047 102.5921 215.4523 129.6953 93.6189 230.8040 186.2773 124.0480 221.0175 263.4891];
- x1 = x';
- yt' = yt';

- 誤差を考慮した場合と考慮しない場合
- S1 = eye(n) .* St(1) ^ 2;
- S2 = diag(St.^ 2);
- W1 = inv(S1);
- W2 = inv(S2);
- % A: ヤコビ行列, B: 正規行列
- A = [qil ones(n, 1)];
- B1 = A' * W1 * A;
- b1 = A' * W1 * yt;
- x1 = inv(B1) * b1;
- B2 = A' * W2 * A;
- b2 = A' * W2 * yt;
- x2 = inv(B2) * b2;

2005/12/13
三次元座標測定6回
2

計算結果の表示 (誤差を考慮した場合)

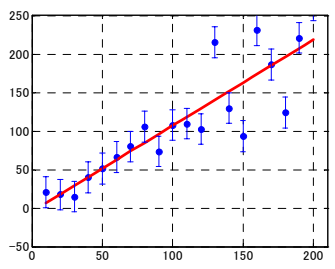
- カイニ乗検定
- v1 = yi - y1; 残差
- v2 = yi - y2;
- ss1 = v1' * W1 * v1 S(x)の計算
- ss2 = v2' * W2 * v2
- ss1 / (n - 2) 自由度で割り算する
- ss2 / (n - 2)
- S(x)
- 誤差を考慮しない: 237.1129
- 誤差を考慮した: 18.3313
- 自由度: 18
- S(x)/(n-m)
- 誤差を考慮しない: 13.1729
- 誤差を考慮した: 1.0184
- 計算したパラメータ:
- 傾き: 1.0915
- 切片: -2.8342



2005/12/13
三次元座標測定6回
3

計算結果の表示 (誤差を考慮しない場合)

- 測定誤差を推定する (標準偏差)
- 20個は測定する (95%に対応)
- 計算結果と測定誤差±2*標準偏差をプロットする
- 1つ程度が外れている (95%)ならOK
- 2つ以上が外れているなら、測定誤差の推定かモデル化どちらかがおかしい
- 異常値?



2005/12/13
三次元座標測定6回
4

パラメータの分散共分散

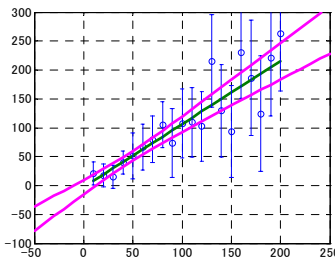
- Sx = inv(A' * W2 * A);
- Sx = inv(A' * inv(S2) * A);
- パラメータの分散共分散行列
- ヤコビ行列Aと誤差行列Sのみで決まる (測定位置と測定誤差) 測定値には影響されない
- Sx = 0.0101 -0.4772
 -0.4772 39.7005
- パラメータの標準偏差相関係数行列
- d = 0.1003 -0.7548
 -0.7548 6.3008
- 計算したパラメータ:
- 傾き: 1.0915 ± 0.2006
- 切片: -2.8342 ± 12.6016

2005/12/13
三次元座標測定6回
5

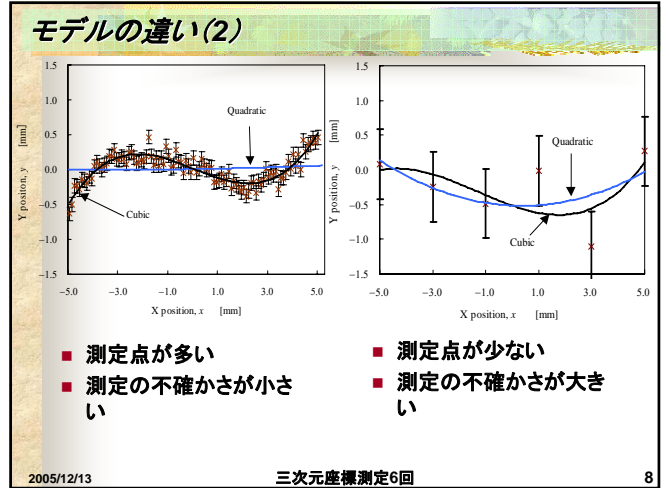
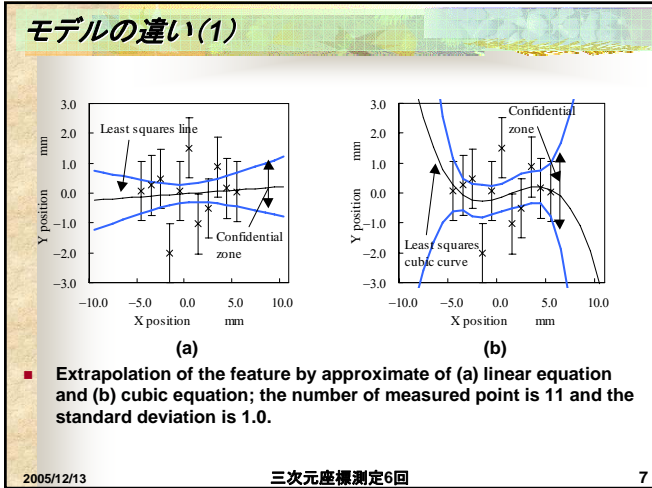
モデルの存在範囲

- x = [-50:10:250];
- nn = length(x);
- for k=1:nn;
- at = [x(k) 1];
- Sy(k) = at * Sx * at';
- end;
- %Sy
- y2 = x2(1) .* x + x2(2);
- ssy = sqrt(Sy)
- xu = y2 + ssy .* 2;
- xl = y2 - ssy .* 2;
- plot(x, [xu; xl]);

- 内挿だけでなく、外挿もできる。
- モデルが複雑だと外挿の精度は非常に悪くなる。



2005/12/13
三次元座標測定6回
6



まとめ

- 最小二乗法の計算
 - 線形: ヤコビ行列A, 誤差行列S, 測定値yからパラメータxを計算できる
 - 非線形: ガウスニュートン法と線形の場合によって計算する
- 計算結果の評価
 - 計算しただけではダメ, きちんと評価すべき
 - パラメータの分散共分散Sx: ヤコビ行列A, 誤差行列Sから計算できる (測定値yは関係しない)
 - χ^2 検定により検定できる
 - 測定点以外の点における信頼性Spを計算できる: パラメータの分散共分散Sxから測定値への誤差伝播すごく重要

$$W = S^{-1}$$

$$B = A^T W A$$

$$b = A^T W y$$

$$\hat{x} = (A^T W A)^{-1} (A^T W y) = B^{-1} b$$

$$S_x = (A^T W A)^{-1} = B^{-1}$$

$$S_p = A_p S_x A_p^T$$

2005/12/13 三次元座標測定6回 9

カイニ乗分布

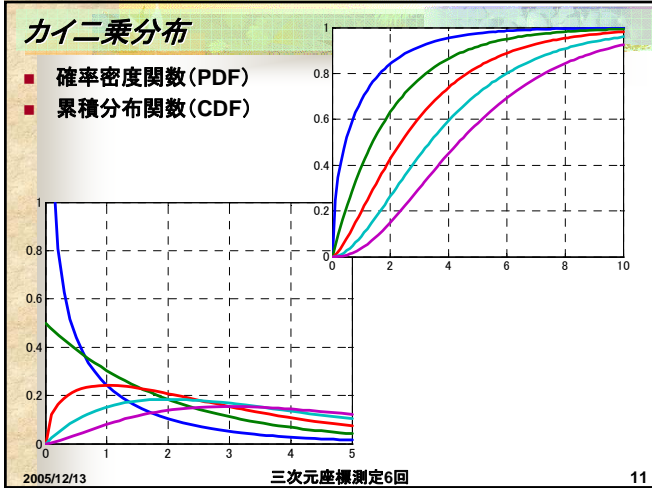
- 平均値が0, 分散1の標準正規分布に従うn個の独立な確率変数xiがあるとき, その平方和 $\chi^2 = x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$ は, 自由度 $\phi = n$ の χ^2 分布と呼ばれる
- $\Gamma()$ はガンマ分布

$$\chi^2 = x_1^2 + x_2^2 + \dots + x_n^2$$

$$f(\chi^2, \phi) = \frac{(\chi^2)^{\frac{\phi}{2}-1} e^{-\frac{\chi^2}{2}}}{2^{\frac{\phi}{2}} \Gamma\left(\frac{\phi}{2}\right)}$$

$$\Gamma(\lambda) = \int_0^{\infty} x^{\lambda-1} e^{-x} dx$$

2005/12/13 三次元座標測定6回 10



- 正規分布, ガウス分布 normal distribution, Gaussian distribution
 - χ^2 乗分布(カイニ乗分布) chi-square distribution
 - 確率密度関数 probability density function, PDF
 - 積分すると1
 - CDFを微分するとPDF
 - 累積分布関数 cumulative distribution function, CDF
 - 単調増加
 - $-\infty$ で0, $+\infty$ で1
 - PDFを $-\infty$ からその値まで積分するとCDF
- 2005/12/13 三次元座標測定6回 12

カイ二乗検定

- $x = [1:100];$
- $y1 = \text{chi2inv}(0.005, x) ./ x;$
- $y2 = \text{chi2inv}(0.025, x) ./ x;$
- $y3 = \text{chi2inv}(0.05, x) ./ x;$
- $y4 = \text{chi2inv}(0.5, x) ./ x;$
- $y5 = \text{chi2inv}(0.95, x) ./ x;$
- $y6 = \text{chi2inv}(0.975, x) ./ x;$
- $y7 = \text{chi2inv}(0.995, x) ./ x;$

残差二乗を自由度で割った値で検定できる。
安全には99%?
自由度は測定点数-パラメータの数

2005/12/13 三次元座標測定6回 13

座標計測の課題

- 直交型のCMMは、成熟した測定機になりつつある。
- 測定機本体についての研究は、かなり充実している。
- 今後の課題は、CMMの使い方が中心となる。
 - 測定戦略, 校正方法, トレーサビリティ
 - 測定の不確かさ解析
- 多くの要因
 - 温度, 測定者, 測定戦略, プローブ
 - 測定物, 測定機本体, 動的な運動
 - ソフトウェア, データ処理手法
 - 校正方法, 補正方法
- 測定タスクに依存する (Task Related Uncertainty)

2005/12/13 三次元座標測定6回 14

形体計測 (Feature Based Metrology)

- 形体計測と形状計測の違い

	形体計測	形状計測
測定点数	少ない (3次元で10~20)	多い (3次元で1000~10000)
測定点の不確かさ	大きい	小さい
測定点の間隔	離散測定 (大きい)	連続測定 (小さい)
データ処理	外挿, 最小二乗	フィルタ
形体モデル	必要	不要

2005/12/13 三次元座標測定6回 15

最小二乗法と最小領域法

- 測定点数 n と直線形体の傾きパラメータの標準偏差 s_a の関係

2005/12/13 三次元座標測定6回 16

形体モデルの推定 (3次関数)

Equation	Coefficient					Standard deviation
	0	1st	2nd	3rd	4th	
Linear	0.0144	0.0063				0.2121
Quadratic	0.0086	0.0063	0.0007			0.2131
Cubic	0.0086	-0.1417	0.0007	0.0097		0.0949
4th	0.0117	-0.1417	-0.0005	0.0097	0.0001	0.0953

- 測定点が多い
- 測定の不確かさが小さい

2005/12/13 三次元座標測定6回 17

形体モデルの推定 (3次関数)

Equation	Coefficient					Standard deviation
	0	1st	2nd	3rd	4th	
Linear	-0.2496	-0.0167				0.5467
Quadratic	-0.5152	-0.0167	0.0228			0.5434
Cubic	-0.5152	-0.1345	0.0228	0.0058		0.7449
4th	-0.1588	-0.1345	-0.0967	0.0058	0.0044	0.5807

- 測定点が少ない
- 測定の不確かさが大きい

2005/12/13 三次元座標測定6回 18

1点の測定の不確かさ

- 測定機に依存する誤差要因 s_h
 - 補正できなかった系統誤差
 - プローピングシステムの繰り返し誤差
- 形体に依存する誤差要因 s_f
 - 形体偏差
 - モデル

$$s_{ij} = s_j = \sqrt{s_h^2 + s_{fj}^2}$$

2005/12/13 三次元座標測定6回 19

形体モデルの外挿

2005/12/13 三次元座標測定6回 20

座標計測の基本的な手順

2005/12/13 三次元座標測定6回 21

座標計測に統計的処理を導入する

- 形状偏差、測定の不確かさを含めた処理
- 前提
 - 測定点が少ない⇒相関がほとんどない。
 - 測定誤差が大きい⇒分離可能とはかぎらない。正規分布で、標準偏差は分かっている。
 - 測定点が形体全体に均等に取れるとはかぎらない。
 - 測定対象の形体のモデルは分かっている。

2005/12/13 三次元座標測定6回 22

平面の測定と平面度

一様な信頼性の幅を持つとは限らない

2005/12/13 三次元座標測定6回 23

最小二乗法による形体の計算

観測方程式： $d = Ap$

正規方程式： $\tilde{A}S^{-1}Ap = \tilde{A}S^{-1}d$

最小二乗解： $p = (\tilde{A}S^{-1}A)^{-1}\tilde{A}S^{-1}d$

- A ヤコビ行列
- d 測定値ベクトル
- p パラメータベクトル
- S 測定値の分散行列

2005/12/13 三次元座標測定6回 24

パラメータ, 計算値の信頼性

$$S_p = (\tilde{A}S^{-1}A)^{-1}$$

$$S_m = AS_p\tilde{A}$$

- S_p パラメータの誤差行列(分散)
- S_m 計算値の誤差行列(分散)
最小二乗形体の信頼性の幅

2005/12/13 三次元座標測定6回 25

直線のパラメータの評価

$$\tilde{A}S^{-1}A = \frac{1}{\sigma_0^2} \begin{pmatrix} n & \sum x_i \\ \sum x_i & \sum x_i^2 \end{pmatrix} = \frac{1}{\sigma_0^2} \begin{pmatrix} n & 0 \\ 0 & \sum x_i^2 \end{pmatrix}$$

$$A = \begin{pmatrix} 1 & x_1 \\ \vdots & \vdots \\ 1 & x_n \end{pmatrix}$$

$$S_p = \begin{pmatrix} \sigma_{p_1}^2 & 0 \\ 0 & \sigma_{p_2}^2 \end{pmatrix} = (\tilde{A}S^{-1}A)^{-1} = \sigma_0^2 \begin{pmatrix} \frac{1}{n} & 0 \\ 0 & \frac{1}{\sum x_i^2} \end{pmatrix}$$

- 測定点は左右対称

2005/12/13 三次元座標測定6回 26

直線の信頼性の幅の計算

$$\sigma_m = \sqrt{\frac{1}{n} + \frac{12(n-1)}{n(n+1)} \frac{x^2}{D^2}} \sigma_0$$

$$\sigma_m = \pm \sqrt{\frac{12(n-1)}{n(n+1)} \frac{\sigma_0}{D}} x$$

- 測定点は±Dの範囲で左右対称
- 測定点の誤差はσ₀
- 相関はない
- 漸近線

2005/12/13 三次元座標測定6回 27

